



今号は、お子さんが感じる様々な「困りごと」に対して、どのような支援ができるか具体的に紹介していきたいと思います。第2回のテーマは、「書くことが苦手な子」についてです。

「書く」ことが苦手な子

授業では、「聞く」「書く」「話す」「見る」「読む」といった力が必要になります。その中で今回は「書くこと」をテーマにお話しします。「書くこと」といっても、「文字を書く動作の難しさ」と「文章を書く力の難しさ」に分かれます。例えば、漢字の線が抜けたり、鏡文字になったりする子は、「文字を書く力」の難しさに該当します。また、考えを順序だてて整理したり、適切な言葉を選ぶ力が不足したりする子は、「文章を書く力」の難しさに該当します。これは、本人の努力不足も多少なりとも関係しますが、その多くは発達特性や得意・苦手によるものです。脳の処理特性による場合は、周囲から「やる気がない」「集中力が足りない」と誤解されることがあります。そうした誤解や叱責、失敗体験が重なると、自信を失い、さらにやる気をなくしてしまうという悪循環に陥ることもあります。つまりいているポイントが、字形なのか、手先の操作性なのか、文章構成なのかを正しく理解し、個に適した手立てや環境を整えることで、子どもたちの「できた」「わかった」という自信や安心感を育てることができます。

「文字を書くことの難しさ」は、具体的に3つの力が関係しています。

①視覚認知（目からの情報を正しくとらえる能力）

文字の形やバランス、位置関係を正しく認識する力です。ここにつまずきがあると、漢字の線が抜けたり、鏡文字になったり、マス目からはみだしたりしやすくなります。

②目と手の協応・手先の操作性（目で見た通りに手を動かす能力）

目からの情報に合わせて鉛筆をコントロールする力です。ここにつまずきがあると、線がなぞれなかったり、筆圧のコントロールが極端に濃すぎたり薄すぎたりします。

③ワーキングメモリ（情報を一時的に覚えて処理する能力）

「黒板を見る→文字の形を覚える→ノートに書く」という一連の流れを保持する力です。ここにつまずきがあると、書き写すのに何度も黒板を見返さなければならず、時間がかかってしまいます。

「文章を書くことの難しさ」は、具体的に2つの力が関係しています。

①構成力（考えを順序立てて整理する力）

頭の中にある思いや経験を組み立てる力です。「何から書けばいいかわからない」「話の前後が分からなくなる」といった困り感につながります。

②語彙・表現力（適切な言葉を選ぶ力）

自分の気持ちや状況に合った言葉を選ぶ力です。「楽しかった」などの同じ言葉になってしまったり、主語と述語のつながりが不自然になったりすることがあります。

書くことが苦手なお子さんへの家庭での支援は、安心して書ける環境づくりと書く力を少しずつ伸ばす関わり方が大切です。

1. 書く環境や道具を整える

- ・鉛筆の持ち方や道具を見直す。(グリップを装着する・三角鉛筆を使う)
- ・姿勢を整える。(足の裏が地面につく高さの椅子を選ぶ)
- ・書くマス工夫する。(大きいマス、中心線の入ったノート)

2. 見やすく・書きやすくする

- ・視界に入る情報を減らす。
- ・書き出す位置の可視化。(赤点で、どこから鉛筆を動かし始めるか視覚的な目印をつける)
- ・書く量を調整する。(最初から全部書かせず、穴埋め形式や数行だけ書く形から始める)

3. 文章作りのサポートをする

- ・書く前に口頭で話す。(「何があった?」「どう思った?」と会話で内容を整理する)
- ・「書き出し」や「文末」のパターンを用意する。(「僕は～へ行きました。」「一番驚いたのは～です。」など)
- ・「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」の枠組みを使う。

4. 書けたことを認めて自信を育てる

- ・「丁寧に書けたね」「マス目に書けたね」など結果だけでなく、過程を具体的に褒める。
- ・「以前よりも長く姿勢がたもてたね」「もう少し長く書いてみよう」など、うまく書けなくても責めない声かけをする。

5. 楽しく語彙を増やす

- ・親子読書に取り組む。
- ・日記やお手紙ごっこを取り入れる。
- ・連想ゲーム・言葉集めゲームをする。(「赤いもの」「楽しい気持ちを表す言葉」を出し合う)

6. 日常の中で楽しく「書く」「手先を使う」「順序よく説明する」練習をする

- ・手先の器用さを高める遊び
○粘土あそび ○折り紙 ○あやとり ○迷路 ○なぞり絵 ○点つなぎ
- ・背中文字あてゲーム
○背中に書かれた文字を充てることで、文字の形や書き順のイメージを育てる。
- ・カルタ・文字パズル
- ・「これなーんだ?」連想クイズ
○「赤くて、丸くて、甘いくだものなーんだ?」のように形・色・味などの特徴を出題するゲーム。特徴を順序よく説明する文章を作る力が育ちます。

家庭では、「書けるようにする」よりも、「安心して書けるようにする」ことを意識されて、お子さんと一緒に楽しく取り組まれてみてください。

※参考資料

「こども+ (プラス)」ホームページ